

危険な草

を知る

フクジュソウも毒草



□の写真は毒草

毒草 — 一面では薬草ともなる



エゾトリカブトと山菜のニリンソウが混ざっている（円内はエゾトリカブトの花）



エゾノレイジンソウもトリカブトの一種

まちが間違っ^{まちが}て食べると、死の危険すらあるトリカブト（北海道には9種6変種が自生^{きぜん}）を始め、思った以上に身近な場所に、毒草は生えています。

特に山菜^{さい}を採る際、少しでも不安な場合は絶対^{ぜったい}に食べないことが大切です。よく知った人に教えてもらいましょう。

しかし、毒草は量や使い方によって（トリカブトであっても）薬となります。また、かつてアイヌ^{りようし}の猟師^{けもの}たちは、その毒を使いこなすことで獣を捕らえていました。



コウライテンナンショウ。根茎に毒があるが、そこを取って食料とした



バイケイソウ。エゾカンゾウの若芽と間違えやすい



クサノオウ。毒草だが肛門にさして痔の薬としたという

トゲのある草たち — 身を守るヨロイ？

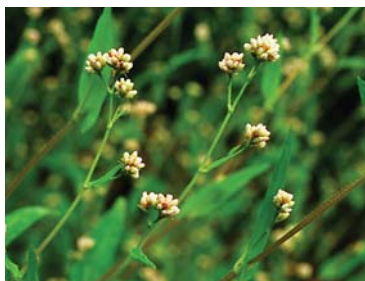
夏、湿った草藪^{くさやぶ}の中を歩いていて、チカチカツとしたかゆみとも痛みともつかない感じを経験した人も多いと思います。こんなちょっと触^{さわ}りたくないような草花もあります。（大ケガになるものはない）

しかし、このイラクサは山菜の一つであり、アイヌ^{めい}の人の布づくり^{ぬの}に欠かせない繊維^{せんい}にもなりました。またアカタテハやクジャクチョウのように、幼虫時にイラクサを餌とするチョウもいます。

少しイヤな草も毒草も、別の面から見ると、人にとっても自然にとっても大切な生き物なのです。



エゾイラクサ。小さなトゲにちょっとした毒がついている



アキノウナギツカミ。このヤブに入るとひっかき傷だらけに



牧草の仲間やオオヨモギは花粉症の原因となる。写真はオオヨモギ（ノヤ）

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」 牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989
「北海道植物図譜」 滝田謙讓 自費出版 2001
「モーリー5号」(財)北海道新聞野生生物基金 編集 北海道新聞社 2001

「北海道薬草図鑑 野生編」 山岸喬 北海道新聞社 1992
「新版 北海道山菜実用図鑑」 山岸喬・山岸敦子 北海道新聞社 1994
「新版 北海道山菜図鑑」 佐藤孝夫 亜細亜社 1995
「アイヌ植物誌」 福岡イト子 草風館 1995